



10年3月6日 最終報告会 資料



公式ホームページ : <http://www.mokuchin.com/>

twitter : <http://twitter.com/mokuchin>

活動時期 : 2009年4月~2010年3月

活動概要

学生有志による木造賃貸アパートの再生プロジェクト。再生した物件に実際に入居することを短期的なゴールとする。

不完全住宅である「木賃アパート」の再生を通して、現代的な住まいの在り方を再考し、社会に対して発信していく。月一度、オープンなワークショップを行っている。

今年度の実施プロジェクト

世田谷区北沢 : 小栗荘

学生メンバー

代表

連 勇太郎 (慶應義塾大学4年)

荒牧 悠 (慶應義塾大学2年)

飯田 将平 (武蔵野美術大学3年)

池田 真人 (日本大学大学院 / M1)

石澤 尚樹 (法政大学3年)

石橋 一希 (首都大学東京3年)

川瀬英嗣 (武蔵野美術大学3年)

久保木 亮太 (日本大学大学院 / M1)

笹井夕莉 (千葉大学大学院 / M1)

善野 浩一 (東京大学大学院 / M1)

根岸 岳 (慶應義塾大学3年)

藤井 俊輔 (慶應義塾大学2年)

松田 佳那 (日本大学大学院 / M1)

ファシリテーター

大島 芳彦 (ブルースタジオ)

天野 美紀 (ブルースタジオ)

サポートメンバー

土谷 貞雄 (住まいのかたち研究室)

白崎 達也 (株式会社良品計画)

学生サポート

都丸 一昭 (株式会社グラウンディングラボ)

與田 雅晴 (U-Brains)

協賛/協力

株式会社ブルースタジオ

株式会社ホワイトスタジオ

株式会社グランディングラボ

株式会社ホープス

オリエンタル産業株式会社

エヌ シー エヌ

4月 活動開始
第一回ワークショップ

5月 メンバー集め
第二回ワークショップ

6月 ウェブリリース
プレスリリース
不動産営業開始
第三回ワークショップ

7月 営業まわり開始
氷川台の物件視察（現在進行中）
第四回ワークショップ

8月 北沢プロジェクト始動（ファサード）
自転車フィールドワーク開始
第五回ワークショップ



9月 営業めぐり
第六回ワークショップ

10月 北沢プロジェクト本格再始動
第七回ワークショップ

11月 フリーペーパー発行
第八回ワークショップ

12月 北沢プロジェクト準備

1月 小栗荘着工

2月 小栗荘工事

3月中旬 小栗荘完成（予定）



- 第1回：『下北沢は〇〇な街である』・・・写メールを使った体験アーカイブ手法を使って、下北沢という街の潜在価値を発見
- 第2回：『〇〇な人達と〇〇な暮らし』・・・対象敷地（街）の好き・嫌いを顕在化させ、その街での一日の暮らしを提案
- 第3回：『木賃でみんなと〇〇な暮らし』・・・対象敷地から木賃を探し、グループで住む事を想定しプランを提案する
- 第4回：『私達にとって木賃とは〇〇です』・・・プレストを基にプレゼン大会をし、選ばれたグループは実際にオーナーさんにプレゼン
- 第5回：『氷川台の木賃への提案』・・・実際の物件を周辺環境も含めて調査し、そこに対する具体的な再生案を提案
- 第6回：『北沢の木賃のコンセプト構築』・・・周辺環境から物件のコンセプトを構築し、物件の新たな名前を提案する
- 第7回：『〇〇はないけれど〇〇のある暮らし』・・・事前課題を基に現代生活の必然を抽出し、それを代替する事で新しい価値の発見
- 第8回：『北沢プロジェクト大プレスト会議』・・・進行中の北沢プロジェクトについて、参加者で徹底議論



①意外性
 ワークショップは毎回『発見』と「驚き」の連続でした。様々な人と「暮らし」、「地域」、「木賃アパート」を考えることで、普段の凝り固まった固定概念は変更を迫られました。本当に風呂は必要か？ワンルームマンションのような密室は必要か？毎回毎回、普段の自分の「生活」を改めて考えさせられる場面が多くありました。実は人によって多様な住み方＝生き方が可能なのではないのでしょうか？ワークショップは、「生活」を他者と深く考え直す重要な時間／場でした。

②フィールドワーク
 携帯とブログなどのメディアを使った意欲的なフィールドワークに挑戦してきました。ウェブなどのコミュニケーションツールが発展している時代状況の中で、フィールドワークにおける「発見」「共有」の方法も再考していくべきなのではないのでしょうか。本プロジェクトでは幾つかの先進的な試みをフィールドワークに導入し、有効的な方法の開発を試みてきました。

③意識／感覚の変化
 木賃は不完全住宅です。「完全」な日常生活を送っていると見落としてしまう事が結構あるようです。ワークショップを通して木賃アパートを丁寧に捉え直していく過程で、木賃アパートが現代でも社会的に機能する重要な資源であることに気付きました。同時に再生方法についてもソフトからハードまで様々に議論してきました。学生の間でも木賃アパートも嫌いな人がいましたが、ワークショップを重ねていく中で、徐所に木賃に対する意識も変化していったようです。



所謂、「木賃」という見た目。通りは狭く、全体的に薄暗い雰囲気となっている。



塀など白く塗装したことで全体的に明るい雰囲気となった。現在工事中のデッキも完成すれば、心地よいスペースとなる。

小栗荘：東京都世田谷区北沢

工期：1月～3月（現在も進行中、3月中旬完成予定）

改装部分

外階段、鉄骨足場、塀、外階段、外壁

連が管理人として入居する予定であったが、

現在、他に入居希望者がいるため調整中。

今回は予算などの関係から、外壁塗装と外部階段ポリカ取付け以外の部分（外部階段塗装、塀塗装、外部鉄骨部分のテラス化）は全て、メンバーで実際に施工しました。道具が足りなかったり、気候に恵まれなかったり、様々な困難がありました。しかし、小栗荘をよりよくしようと毎日現場で身体を動かしていく中で、周りの住民の方との関係性を築いていくことができました。このような経験を通して、地域の中で「若者」が入り込んでアクションを起こしていくことの可能性を感じました。

課題

メンバーは主に建築やデザインを勉強している学生です。そのため、今回の北沢プロジェクトにおいて、積極的に「もの／デザイン」として評価できるものが出来たかどうか、検証／反省していく必要があります。

プロジェクトとしては意欲的な内容となりました。今後は「作り手」として、どのようなアウトプットを出していくのが可能なのか考えていく必要があると思っています。